

## はじめに

初めまして、アイデックス社会保険労務士法人の吉成正樹と申します。代表社員をしております。代表社員というと、社員の代表かと間違われることが多いのですが、社長です。株式会社役員は取締役ですが、社労士法人の役員は社員といえます。

私はこのたび、初めて本を書くことになりました。

出版社の galaxy 株式会社さまから、「社会保険」について本を書かないかとご提案を受けたことがきっかけです。私もそうでしたが、多くの方は、新入社員として初めて社会に出て給与明細書を見て、給与から知らずに天引きされている社会保険料や税金とはどんなものか、疑問を抱いた経験があると思います。

そのようなことから、社会に出たばかりの若者やこれから社会に出る若者に対して、社会保険労務士という立場から、社会保険の基礎知識を知っていただけたらと思っています。

ます。

したがって本書は、社会人として知っておきたいことを簡単にわかりやすく説明したもので、社労士などの専門家向けの専門書ではありません。私が最重要と考えていることだけを書いており、まだまだこの本に載っていない情報はたくさんあることをお伝えしておきます。

若者をはじめ、会社の人事・総務部門で仕事をされている方、会社の管理職や経営者の方にもぜひ手に取っていただけることを願っております。社会生活をする上で知っておいたほうがいい、そしてお得な情報源として、本書をご活用いただけたら幸いです。

## 私について

---

まず初めに、簡単に私がどんな経験をしてきたのかをお話しさせていただきます。

私は平成5年に大学院を修了し、パイオニア株式会社へ就職しました。

物理学を専攻していたので、技術職を希望し、新製品の開発部門へ配属されました。それから20年間、3つの新製品の研究や開発に従事しました。

世の中に出たものもあれば、そうでないものもあります。

そんな中、平成25年に母が死去しました。母の遺言で、父の経営するアイデックス社会保険労務士法人をすぐに継ぐよう告げられていました。

20年間、技術者として歩んできましたが、悩んだ末に転職を決意し、遺言を尊重するかたちで社会保険労務士になりました。

私は幼い頃から、父の経営する会社へ入ることをずっと拒んできました。社会保険労務士は事務職だからです。母が亡くなる以前の出来事ですが、父が病に倒れたのを機に、母から資格だけは取るように説得され、40歳から働きながら勉強を始めました。なんとか42歳で試験に合格しましたが、それから2年後、突然母が帰らぬ人となりました。

平成30年現在、社会保険労務士となつて5年がたちました。

事業承継して、今では社長業もやっております。社会保険労務士は社会保険と労務管理の専門家です。会社と従業員をつなぎ、両者が働きやすい環境を整えるのが仕事です。従業員と社長の両方の立場がわかっているのが私の強みであり、いいアドバイスができるように常に心がけています。

## この本で伝えたいこと

---

社会人になって最初の給与明細書を見ると、雇用保険料、健康保険料、厚生年金保険料、源泉所得税などが引かれ、手取り額が少なくなっていることがわかりました経験をお持ちかと思います。

なぜ天引きされているのか、何が天引きされているのかわからず、そういうものだから仕方ないことだと考える人もいます。そのような人にぜひ、本書を読んでいただき、少しでも疑問を晴らしてもらえればと思います。

また、会社勤めが始まると、言われていた労働条件と違って不満に思ったり、職場環境や人間関係などで悩んだりすることが、多かれ少なかれあると思います。長時間労働など労働トラブルは非常に多くあり、そのようなとき、どこに相談へ行けばいいかも書いています。

本書は、社会人になったばかりの人だけでなく、会社の管理職や経営者の方にも参考になるものと思います。この本を読んで、社会保険や労務管理についての知識が広がれば幸甚に存じます。